



岡山 史料ネット Newsletter Vol. 5 2021. 3

野崎家塩業歴史館に残された災害資料

活動報告 (2020年9月～2021年2月)

1. 西日本豪雨被災資料修復・整理作業

2020年1月以来となる11月の作業では、4名で山崎家文書の撮影・補修・目録作成を行いました。山崎家文書は、倉敷市の個人宅に伝来した、丹波篠山藩士であった先祖に関する資料群で、西日本豪雨で被災したものの、歴史資料ネットワークを経由して情報がもたらされたことを契機にレスキューされました。所蔵者の移住に伴って歴史資料も移動し、移住元と移住先のどちらの自治体文化財担当部局にもその存在が把握されなくなることは珍しくありません。そのような状況と豪雨を乗り越え、史料ネット同士の横の繋がりを活かして救われたことは大きな成果です。

2. 第7回全国ネット研究交流集会

2021年2月20日・21日、第7回全国史料ネット研究交流集会が①東日本大震災から10年を経た資料保全の現状と課題、②COVID-19下における資料保全をメインテーマにオンラインで開催され、ポスター報告などで岡山での取り組みについて報告し、議論と交流を深めました。

東日本大震災以降、各地の史料ネットと行政と

の繋がりは格段に深まりました。このことは、2月に発生した福島県沖地震に関して、宮城ネットや福島ネットが被災自治体と情報交換をしつつ対応にあたっていることから明白です。他には、栃木ネットや那須ネットのように、文化財保護法改正に伴って各都道府県で策定されている文化財保存活用大綱に、地元の史料ネットの存在が明記されている例もあります。また結成間もない東海ネットは、所蔵者の同意があれば、災害時に歴史資料の所在に関する情報提供を愛知県から受けることが可能になったようです。平時からの行政との連携も深化しています。

一方で、各報告で指摘された、東日本大震災で被災した資料の救出保全は10年を経てもお道半ばである、という事実は大変重たいものです。現在の枠組みの中でよりよいネットワークを築いていくと共に、大規模災害において発生する大量の被災資料を、だれがどのような方法によって救うのか、ということを抜本的に問い直すことは、忘れてはならない課題です。

(文責・上村和史)



芸術・文化による
災害復興支援

●ファンド●

公益財団法人

岡山史料ネットの「2018年7月豪雨災害被災地域の文化財修復活動」は、芸術・文化による災害復興支援ファンド (GBFund) より、助成金の採択を受けました。

活動参加記

「第7回 全国史料ネット研究交流集会」参加記

政次 加奈子

2021年2月20日、21日に第7回全国史料ネット研究交流会が開催されました。仙台市内での開催予定でしたが、新型コロナウイルス（COVID-19）感染対策のためZoomを用いたオンライン開催となりました。

1日目は、東日本大震災から10年を経た資料保全の現状と課題、2日目は、COVID-19下における資料保全のあり方を問うというメインテーマを中心に議論が進められたほか、2日目のランチタイムには2月13日に発生した福島沖地震に関わる緊急情報交換会が行われました。福島・栃木・山形の史料ネット等から情報共有があり、福島では、指定文化財については県によって被害状況が把握されているものの、未指定文化財や神社仏閣の建造物内部といった外から分かりづらい被害については現時点で全体像が把握されておらず、今後も注視する必要があることが報告されました。

今回の集会で特に印象深かったことは、「次世代を担う学生たち」「若い世代の人たち」という言葉が、現在活動の中心を担われている登壇者から度々発せられたことです。次世代の育成が精力的に進められているほか、本集会のなかでも「若い世代」の意見を求められており、「次世代に対する期待」というメッセージを受け取りました。私自身、今までは岡山大学の先生方や先輩方の指導を受けながら活動にかかわってきた立場ではありましたが、今後は少しずつ主体的に活動する側にまわり、資料保全の活動を継承するとともにさらに盛り上げていけるよう精進したいと気持ちを新たにしました。

史料紹介 明治26年水害と野崎家

久野 洋

明治26（1893）年10月の暴風雨は、岡山県全域に未曾有の被害をもたらした。10月11日から降り始めた雨は13日に暴風雨となり、14日以降、各地で堤防が決壊し、山崩れも多発した。ようやく天候が落ちついたのは16日の夕方であった。10月31日までに県庁が把握した被害の状況は、死者・行方不明者423人、家屋全流壊6240戸、床上浸水3万8970戸、堤防決壊11万2887ヶ所、橋梁流失2万4742ヶ所、山崩れ1万2670ヶ所となっている。

岡山県は前年7月にも死者74人をだした暴風雨に見舞われていたが、26年水害はそれを超える甚大な被害をもたらしたのであった。しかも、水害後には水

系感染症が広がり、翌年にかけて赤痢・腸チフスによる死者数は5183人に及んだ（『岡山県統計100年史』）。こうした災害関連死も含めて考えると、明治26年水害は岡山県の近代史上最大の被害をだした大規模災害といつてよい。

近年、岡山県倉敷市児島の野崎家塩業歴史館で明治26年水害に関する史料が見つかった。ここでその一部を紹介してみたい。

野崎家は近世・近代の日本を代表する塩田地主である。第3代当主の武吉郎（1848-1925）は、明治期に貴族院多額納税者議員をつとめ、岡山県の政財界で重きをなした。

次ページの地図は新出史料の中の1つである。明治22年発行の「新撰岡山県全図」が使われ、薄い青色で塗られた地域が「浸水地」、濃い青色で斜線が引かれた地域が「甚浸水地」を示している。岡山県の一級河川は東から吉井川、旭川、高梁川の三水系であるが、この三川の流域を中心に県全体の広い範囲で浸水被害が発生したことが一目瞭然である。とりわけ、旭川と高梁川の下流域で大きな被害がでている。岡山県立測候所『岡山県下暴風及洪水詳報』によれば、10月10～16日の総雨量は、県北で約300ミリ、県南で約200ミリであった。総雨量が少なかった県南でより大きな被害がでたという事実は、岡山平野が水害に弱い土地であることを物語っている。岡山平野は干拓と埋立によってつくられた日本有数の低平地となっており、全国的にみて年間降水量が少ないにもかかわらず、過去に幾度となく水害に見舞われてきた。明治26年の時も岡山市、御野郡、上道郡、下道郡、窪屋郡、浅口郡などで大きな被害がでたのであった。

この地図が野崎家に残された経緯については、現時点では確定的なことがいえない。県が作成したものを取り寄せたか、あるいは野崎家が各地の情報を集約して作成したか、今後さらに検証していきたい。

ところで、地図をよく見ると、赤い線が引かれている。この線は、野崎武吉郎が水害発生後に被害地を巡視してまわったルートである。野崎は10月24日～11月7日の間、おおそ県内を反時計回りに一周するかたちで視察していた。

野崎が巡視中に綴った「日誌」も、野崎家には残されていた。以下では、10月26日に下道郡川辺村（現倉敷市真備町）を訪問した際の「日誌」の内容を引用してみよう。

一、下道郡書記太田善^蔵分^付添案内ス、川辺村へ行、同村ハ県下第一ノ被害ニシテ家屋拾中ノ九分九厘ハ流失宅地ハ一面ニ原野ノ如シ、残ル家屋近傍道路ハ潰家流家其他雑物相嵩ミ、其上ヲ通行シ、遭難者呉服商某日ク、此潰家ノ下ニ必ラスシモ死体アリト、何トモ早口、惨状極ル次第、村役場仮事務所へ行、村長神崎達三郎へ面会、水災取調書ハ追テ郵送スルトノ事、又警察署出張所へ立寄り太田警部ニ面会ス

一、川辺村三百戸ノ処、二十六戸ノ外ハ流失ス

一、川辺村ニテ死亡凡八十人、内四十人ハ死体アリ

〔中略〕

一、堤上ニハ遭難者仮小屋ニ居レリ、雨露モ難凌程ノ小屋ニテ敷物ナシ、惘然ノ至リ、千円又二千円ノ身代アリタル者モ財産ヲ流失シ、寄ルベキ親族ナキ者ハ此小屋ニ居レリト郡書記云ヘリ

一、郡書記曰、婦人ノ死体ヲ見ルニタスキ掛或ハ裸体等ナリノモノ多シト云フ

川辺村では、村内の家屋がほぼ流失し、40人の遺体は見つかったものの、潰れ家の下敷きになっている者など40人の行方不明者がいるとされる。雨露も凌げず、敷物もない仮小屋に住んでいる遭難者がおり、たすき掛けか裸のままの婦人の死体も多いという。まさに「惨状極ル」光景であった。このように野崎の「日誌」は、郡書記や町村長から聞き、また自ら実見した水害発生後の地域社会の状況について、リアリティをもって伝えている。

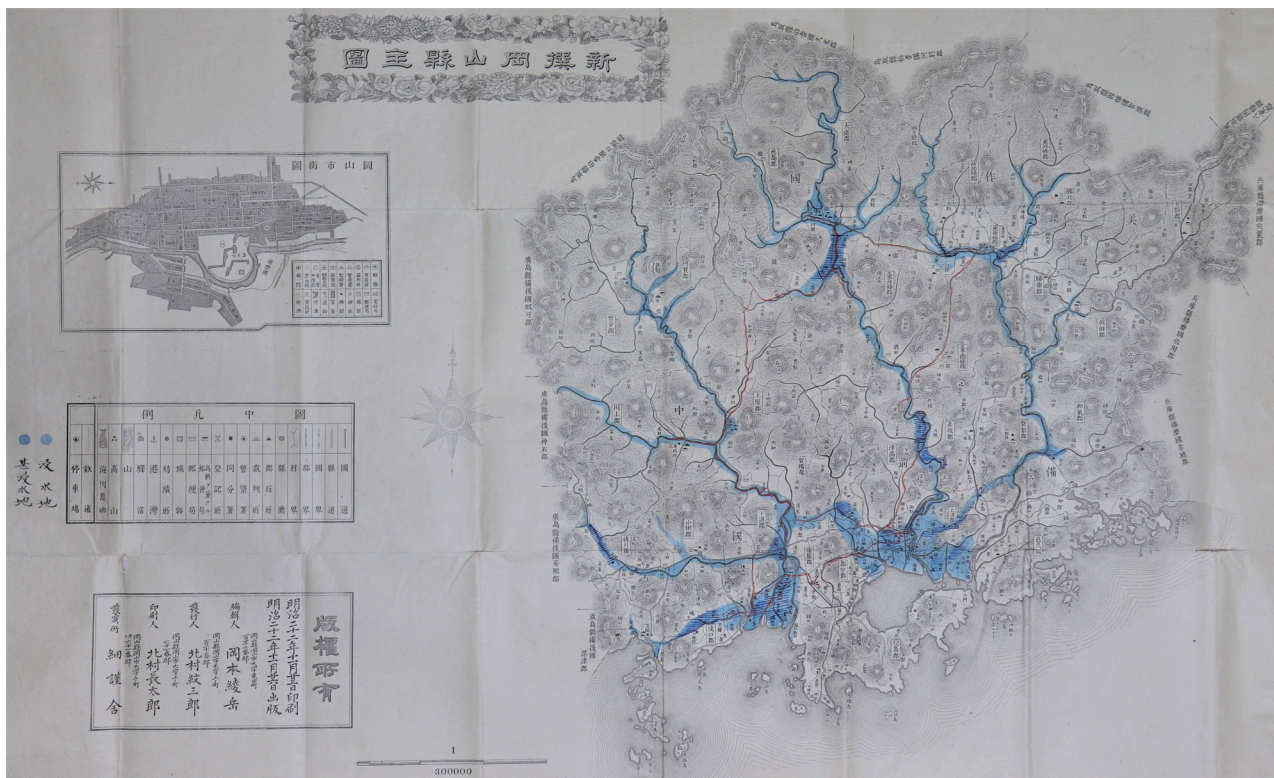
災害を体験した人びとは、その体験を伝えようときまざまな記録を残す。野崎の「日誌」もそうした記録の1つだが、これらは、県が発表した被害の状況では推し量れない、被災地域の実相を伝えていることが少なくない（久野2021）。

また、明治26年水害は、前年の水害を受けての復旧工事の途上で発生したこともあり、地域の復旧・復興のあり方があらためて問い直され、近代岡山の地域社会形成に大きな影響を及ぼしたと考えられる。この過程を、野崎のような地域の有力者の関わりもふまえて検証していく作業が必要だろう。その際には、前近代からの長いスパンで、また生活者の目線に立って、地域のありようをとらえる視点を保持しておきたい。

近代岡山の災害史は、研究上の沃野であることは間違いないように思われる。

<参考文献>

- ・岡山県編『岡山県水害史』上・下（岡山県庁、1901年）
- ・岡山理科大学『岡山学』研究会編『岡山の「災害」を科学する』（吉備人出版、2012年）
- ・久野洋「明治期の水害史料と地域社会・地方行政」（『資料学の方法を探る』20、2021年）



明治 26 年水害時の岡山県内の浸水箇所（「野崎家史料」）

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座（普通口座）

【記号】15470 【番号】38569531 岡山史料ネット（オカヤマシリョウネット）

（他の金融機関からの振込の場合）

【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

2020 年 9 月から 2021 年 2 月までにご寄付をいただいたみなさまは以下のとおりです。

朝尾直弘・土師千昭（五十音順、敬称略）

事務局 〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学文学部日本史研究室内

電話 086-251-7442

e-mail okayamasiryonet@gmail.com

URL <http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/>

Twitter @okayamasiryonet

GBFund

芸術・文化による
災害復興支援

●●ファンド●●

企業メセナ協議会